

「甲状腺検査 公開報告・交流会」(2019.5.18)に参加して

かたつむりの会 嶋原 敦子

大変充実した交流会に参加させていただき、ありがとうございました。当日は途中参加となりましたが、私達と同様に福島県外に暮らしながら、原発事故による健康影響への心配から地道な活動を展開されてきた脇さんのお話、大変勇気づけられました。3・11 甲状腺がん子ども基金の給付事業への申請が、福島県外からもあがっていること、そして茨城、千葉、栃木などでも徐々に甲状腺検査を実施する自治体が出てきていることを知りました。また、「いずみ」さんの甲状腺検査活動に関わっておられる医師達のお話からは、子どもの健康状態をそばで見守る親の思いや検診後の心のケアに至るまで、本当に親身になって考え、市民目線で私達に寄り添ってくださる様子がわかり、とても心強く感じました。

また 2 部の交流会では、県内各地で同様の思いをもって活動する方々のお話、共感しきりでした。震災後の初期対応の要請活動や昨今の放射性廃棄物焼却問題もあり、各地で世代を超えてこの問題に向き合う場ができてきたことや、「いずみ」さんの活動があったからこそ新しくできた（あるいは活動を再開した）市民グループがあったことも知りました。

検診をせずしての「心のケア」は、本当の安心にはつながりません。現状では、本当の問題が覆い隠され、科学的にまだ未解明なことは「安全」に置き換えられつつ、問題は心のせいにされていきます。しかも宮城県では「ポスト復興」という言葉さえ語られはじめ、原発事故はあたかも福島だけの問題で、10年で区切りがつくかのような空気が漂い始めています。でも核災害の時間軸はまったく異なるはず。今後も長く向き合い続けなければならない、むしろこれからの問題でもあることを、私たちは再確認しなければならない時期にきているように思います。今回の集まりを通して、こうした横のつながりをこれからも大切に、今ここでできることを一緒に考えていきたいと改めて感じました。このような機会を作ってくくださった「いずみ」の皆さん、ありがとうございました。

2019年6月13日記

「甲状腺検査 公開報告・交流会」に参加して

朝倉 美幸

2019年5月18日、エマオで行われた「甲状腺検査 公開報告・交流会」へ参加しました。

いずみの検査報告、「NPO 法人 3・11 甲状腺がん子ども基金」脇ゆうりか事務局長のお話をはじめ、山崎先生や寺澤先生、宮城県内で活動されている市民団体の皆様の活動報告に聞き入りながら、原発事故から現在に至る迄の自分自身を重ね、当時を思い出しては反芻するような一時でした。特に、子ども基金の脇さんの報告は、甲状腺がんと診断された子ども達の「今」を垣間見る貴重なものでした。

現行の小児甲状腺検査は、判定人数や親御さんの気持ちにスポットが当たりがちですが、検診者である子どもたち一人一人が何を思い、考えているのか？、大人は彼らにどのようにして力になれるか？

私自身が甲状腺検査を手伝う中で常々思い巡らせていたことを、脇さんも今後の課題として捉えておられ、深く共感しました。

又、全ての団体の方々が共通して「コミュニティの重要性」を口にしておられたこと。

原発事故以降、市民測定所や被災者支援団体は全国に数多く生まれましたが、団体同士を繋ぐネットワークが特になく、交流の機会も今迄殆ど無かったと思います。

当事者同士が緩やかに繋がること、相互協力し活動を続けていくことは、風化防止、子ども達への継続的支援など、私達が原発事故を克服するために絶対不可欠です。

今後長期化するであろう原発事故による放射能汚染と被曝の問題、その対策の中で"当事者どうしの横の繋がり"の必要を改めて強く感じました。今回の会は、その一助となる有意義なものであったと思います。今後の継続開催を希望致します。

2019年7月3日記